

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価計画

学校名	佐賀市立城北中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上として、学習内容の定着を図るための取組を行ったが、さらなる効果的な支援方法の工夫が必要である。 ・自転車通学生への交通安全指導について、地域と連携した取組を一層推進する必要がある。 ・業務改善・働き方改革として、務の効率化は進んでいるが、定時退勤の実現に向け、教育課程の見直しなど更なる改善が必要である。 ・特別支援教育として、生徒理解を深める研修を継続し、より適切な支援体制の充実を図る必要がある。
2 学校教育目標	夢の実現に向け、主体性をもって学び続ける生徒の育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 将来を見通したキャリア形成を目標とする教育活動 ② 自己肯定感を高め、他者を思いやる豊かな人間関係づくり ③ 開かれた学校づくり

4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目			
評価項目	重点取組		具体的取組
	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	○学習課題と進め方を明確にし、粘り強く協働して学ぶ中で、考える力と表現力を高める。	○「課題に対して、粘り強く協働して学び、考えたことを自分の言葉で表現できている」と回答した生徒85%以上	・単元シートを活用し、学習の見直しと振り返りを充実させ、粘り強く協働して学ぶように工夫する。 ・異なる教科担当でチームを作り、相互授業参観や研究授業を行うことで、授業改善を図る。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分や友達の命を大切にし、思いやりをもって、良いこと・悪いことを判断して行動できている」と回答した生徒95%以上	・道徳科の授業を中心に、生徒同士の交流を大切にし、自己肯定感や自己有用感を高める。 ・道徳科の授業づくりの充実に向けて、ローテーション道徳を実施し、全職員で取り組む。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「困ったことがあったときに安心して相談でき、周りの大人がすぐに対応してくれると感じている」と回答した生徒90%以上	・月に1回、全校生徒に生徒アンケートをとる。 ・連絡掲示板を活用し、生活指導に関する事案や対応状況等の最新情報を、全職員が迅速かつ確実に共有できる体制を整える。
	●生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●◎「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒80%以上	・生徒の自己肯定感および将来展望の育成を図るため、日常的な承認の場の設定や個別面談の実施、目標設定と振り返りの機会の充実、進路に関する情報提供等を計画的に行う。
	○学校行事や生徒会活動を通して、生徒一人一人の出番や役割を保障し、認め合う支持的な風土を育てるとともに、自己肯定感の向上を図る。	○「学校行事や生徒会活動で自分の役割があり、周りに認められていると感じている」と回答した生徒80%以上	・学校行事や生徒会活動を通して、生徒の出番・役割を保障し、自己肯定感を高める。また、日頃からの授業で、前向きな声かけを行う。
	○不登校対策の充実	○「学校は、自分にとって安心できる場所だと思う」と回答した生徒 90%以上	・毎週1回「北辰タイム」(ショートソーシャルトレーニング)に取り組み、人間関係づくりの強化を図る。 ・Q-Uアンケートの分析と活用について職員研修を実施し、生徒への具体的な支援に役立てる。
●健康・体づくり	●安全に関する資質・能力の育成	●「交通マナーやルールを守り、自分や周りの安全を考えて行動できている」と回答した生徒95%以上	・交通マナーやルールの遵守に関する意識と実践力を高めるため、交通安全教室や学級指導により知識の定着を図るとともに、登校時の指導や日常的な声かけで行動の徹底を図る。
	●望ましい生活習慣の形成	●「規則正しい生活を心がけ、時間やルールを守って行動できている」と回答した生徒90%以上	・規則正しい生活習慣の定着に向け、生活リズムの確認と学級指導を行うとともに、日常的な声かけと家庭との連携により行動の改善を図る。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日、部活動休業日を設定する。 ・長期休業中の積極的な年休取得を促す。
	○職員間の連携促進	○「職員間で相談・協力しやすい雰囲気があり、学年や分掌を超えた連携によって業務が円滑に進められていると感じている」と回答した職員90%以上	・定期的な情報共有の場の設定や連絡掲示板等の活用により情報共有を徹底するとともに、学年や分掌を超えた連携を促進し、業務の円滑化を図る。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○「個別の支援計画等を活用しながら、特別支援教育に関する研修や情報収集に積極的に取り組んでいる」と回答した職員90%以上	・個別の支援計画の作成・見直しを定期的に行い、校内研修等で共有・活用する。 ・特別支援教育に関する校内研修の実施や外部研修への参加を促進し、得た知見を職員間で共有する体制を整える。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
評価項目	重点取組		具体的取組
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
○将来を見通したキャリア形成を目標とする教育活動	○キャリアパスポートを活用した自己の成長・目標の振り返り ○職業調べ・進路学習を取り入れた総合的な学習の時間の実施	○「職業調べや進路学習、キャリアパスポートの振り返りを通じて、自分の成長を感じるとともに、将来や進路について具体的に考えることができた」と回答した生徒90%以上	・職業調べや進路学習(調べ学習・講話等)を計画的に実施し、将来について具体的に考える機会を設ける。 ・キャリアパスポートを活用し、学期ごとに目標設定と振り返りを行い、自身の成長や課題を言語化させる。
○開かれた学校づくり	○学校だより・学年だより・ホームページ等による積極的な情報発信 ○学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の活用	○「学校は、ホームページやメール、学校・学級だより等で、必要な情報や学校の様子を知らせていると思う」と回答した保護者90%以上 ○「学校運営協議会の機能を生かし、保護者や地域と連携した開かれた学校づくりを計画的に推進している」と回答した職員90%以上	・学校だよりやホームページを定期的に更新し、教育活動や生徒の様子を積極的に発信する。 ・学校運営協議会を定期的に開催し、意見交換や情報共有を通して、保護者・地域との連携を強化する。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
----------------	---